

-----11月7日-----

今週のアウトルック(11/7~11/11)

先週は月曜日の午前中に日銀によるドル売り円買い介入があり、75.5円ギリギリまで下げたドル円は、一時的に79.5円台にのせ、その後78円台で推移しました。介入によりクロス円もレンジが一段上がったような状況となりました。

また、週末の米国雇用統計は、非農業部門雇用者数が予想を下回ったものの、過去分が上方修正され、雇用の落ち込みは一旦終止符が打たれたという見方が支配的となり、米ドル買いが少し進んだ様子です。

今週はこの流れをこのまま継続するのか、難しいところですが、EUリスクが予断を許さないところからも、もう一段のドル買いが進むとも考えにくく、再び円買いが進む可能性もあるのではないかと考えています。

ドル円は、79.5円まで円安が進んだ後、78円台まで戻し、78円の攻防ラインを死守している様子です。米国雇用統計の結果を受けて、単独でドルが買われる可能性も見せてはいますが、あまり長くは続かないのではないかと考えています。

ひとたびリスク回避センチメントが強くなれば、再びドル円は75円台を目指す状況になっても不思議はないように思います。

日銀と投機筋の攻防も気になるところですが、流れが一旦大きく傾いてしまえば、75円台に戻るまでそれほど時間はかからないかもしれません。

ドル円の予想レンジは75.5円から79円です。

ユーロは、ギリシャの国民投票問題は回避できたものの、解決にはまだまだ長い道のりのようです。イタリアの問題にも焦点が当たるようになり、ユーロドルの上昇トレンドは、一旦終了した可能性が高いように思います。今後しばらくはレンジ的な動きになりそうですが、ギリシャやイタリアの動向次第では、再び下降トレンドに転換する可能性もあるように思います。

ユーロ円の予想レンジは106円から109円です。

ポンドは、上昇トレンドは継続しているものの、円売りによる底上げで、127円あたりのレジスタンスに当たっているようです。今週はレンジ的な動きになるように思います。

ポンド円の予想レンジは124円から127円です。

今週は円売り介入による底上げ、EUリスクの再燃、米国の雇用改善が微妙に絡み合い、難しい動きとなりそうです。

* 免責事項 *

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

